

## OB/OG と語る会

学生支援活動として毎年行っている「OB/OG と語る会」が7月2日（火）学部3年生を対象に開催されました。今年は企業と大学から二人の先輩をお招きしました。講演要旨と学生がそれをどのように感じたのかを掲載いたします。

1. 坂本 明氏：1971年応用化学科卒，昭和電工  
元研究所長，常勤監査役

「韓国企業の強みと日本の対応：韓国 CTO クラブ  
との交流を通じて」

要旨：

1998年のアジア通貨危機に伴う構造改革を契機に韓国企業は、グローバル市場で業績を大きく伸ばして台頭し、世界金融危機を契機に急成長し、日本企業の強力な競業者となっている。この様な韓国企業の躍進には、日本の企業と異なる事業戦略が奏功してきた。即ち、韓国企業はまず初めに成長可能な市場の探索を行い、その中で自社が進出しようとする事業についてリスクと世界市場のポテンシャルを検討し、次いで進出する場合の必要資源を列挙し、その資源の入手可否を十分検討したうえで可能との結論が出れば、資本の力で必要資源を得て産業を一気に立ち上げるビジネスモデルで先行企業を駆逐してきた。また、韓国政府も将来の発展を期し、仁川自由経済区 (IFEZ) を設定し、大規模開発、且つ進出企業に優遇措置を与える事により、職住近接を前提とした、巨大な産業集積を画策、その規模も含めて驚くべき産業政策を進めている。しかしここにきて韓国企業の従来の政策は転換期に来ている。それは、単純に日本を追い越すと言うネタが無くなってきた事であり、今後は韓国企業が自ら技術革新を伴い発展を図っていかなくてはならず、その意味で本当の開発競争が始まると言ってもよい。韓国企業の弱点は、素材・原料・部品を日本に頼らざるを得ない事であり、逆にこの点が日本の優位な点である。このことは韓国も十分認識して居り、現在国家プロジェクトとして民間企業を巻き込んで素材開発に注力し始めている。これに対し日本はまだ民間の開発力に依存しているところが大きい。大学・研究機関の研究・開発水準は世界的に見ても高いレベルにある。今後の課題はこれをどの様にコラボさせ、発展させていくかであり、NIMS が始めたオープンイノベーションの試みは注目に値する。産業政策と言うとマ

スコミはとかく最終製品に目が行くが、本当の競争力強化は素材開発に掛って居り、今後も有効な産学協同を目指して行きたい。

2. 宮本悦子氏：2000年工学研究科（物質工学）

博士課程修了，東京大学医科学研究所インタラク  
トーム医科学部門 部門長 特任准教授  
「ピューロマイシンテクノロジーが拓く化学→バイオ  
→医学の世界」

要旨：

大学院時代に三菱生命科学研究所で学んだ「最初からすごい研究はない。面白い研究があるなら、面白くした人がいる。そう言う人になりなさい。」というメッセージを、学生へ伝えることを講演の目的とした。横浜国大の大学院での博士研究テーマである「ピューロマイシンテクノロジーの創成とバイオや医学への応用」についての説明を通して、私のよりどころである「ピューロマイシンテクノロジー」とは何か？それをどう展開して来たのか？そして、「面白い研究に飛びつくのではなく、未踏の研究を面白い研究にした人になりなさい！」と言うことを目指して、今、自分がどんな夢を描いているのかを伝える。この講演を聞いたことがきっかけとなって、新しい分野を開拓して行くような「夢を持てる学生」が1人でも育ってくれることが希望である。

・日本の技術が世界に誇れるものだとすることを再認識できた。

・大学での研究を突き詰めれば分野を越えて、その内容を発展させることができる。

・自分の仕事に誇りを持っていて、すごく輝いて見えた。

・自分のよりどころとなる強みを見つけ、それを育てるための糧を見つけることが大切である。

・自分がもし興味あることが（分野が）あれば、回り道をしていいから、その分野の仕事、研究ができるように努力をなさいと伝えていると感じた。

・異分野に触れて、自分のよりどころを見つける。そのため専門以外のことにも興味を持つ。

・技術だけでなく、多方面、分野とのつながりによって技術が生かされる。

・韓国企業と日本企業の違いについて初めて知ることができた。韓国企業はとにかく金になりそうなものを、金で取ってきて金にすることを目標としている点で日本と違うが、日本もそのくらいなりふり構わずかかっているかないと、これから勝ち残っていけないと思った。

・日本は基盤技術でいまだ優位性を保っている。しかし、これから韓国などの新興国が攻勢をかけてくるのに備えて、産学の連携をより一層深めなくてはならない。大学が持つパテントを事業化できれば、大学はライセンス収入が得られ、さらに研究が活発化する。

・最初からすごい研究はない。人間万事塞翁馬。

・韓国企業と日本企業の事業展開のやり方の違いにそれぞれの国民性がでていていると感じた。

・化学だけにとどまらずバイオや医学分野にも広く興味をもって視野を広げていくとよい。

・自らの興味のある分野や、やりたい研究を明確にしても先の事を考えながら動く。

・自分のやりたいことを本当に社会で行い、生かしているのが本当にすごいと思った。

・日本の高い素材研究力を生かし、韓国などの他部門に強みを持つ国とも協力することで双方に利益を生む関係ができる。

・自分の軸となる事を見つけ、様々な分野に触れることで自分を成長させていくことができる。

・日本の研究レベルは高いのに、それが産業に生かされるように、より一層の産学連携が必要だと思った。

・早く自分も特に専門にしたい分野というものを見つけ、深く学んでいきたいと感じた。

・お二方とも熱心に研究に取り組まれており、国大化学科の将来の大きさを感ずることができました。

・韓国企業の発展の背景には、人件費等の関係だけでなく、研究に着手する段階から日本とは異なる手段があるということが特に印象に残りました。

・具体的な研究内容について完全に理解することはできませんでしたが、自分の研究について非常におもしろみを感じていることが伝わってきました。

・韓国は人工の少なさのために事業拡大にはグローバル化が必須なことを初めて意識した。

・面白い研究があるなら、面白くした人がいる。そういう人になりなさい。

いかがでしたでしょうか、来年度も継続の予定です。どなたか学生へのプレゼンテーションに立候補していただけないでしょうか。事務局まで連絡していただければ幸いです。